

国立病院機構熊本医療センター

No.179



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

本年度も臨床研修医を迎えました



教育研修部長
清川 哲志

今年は桜の花と同時に新研修医20名を迎えました。医師研修医18名、歯科研修医2名で女性8名です。出身大学も兵庫医科、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎とさまざま、明るい個性的な新人がそろっていました。オリエンテーションも無事に終

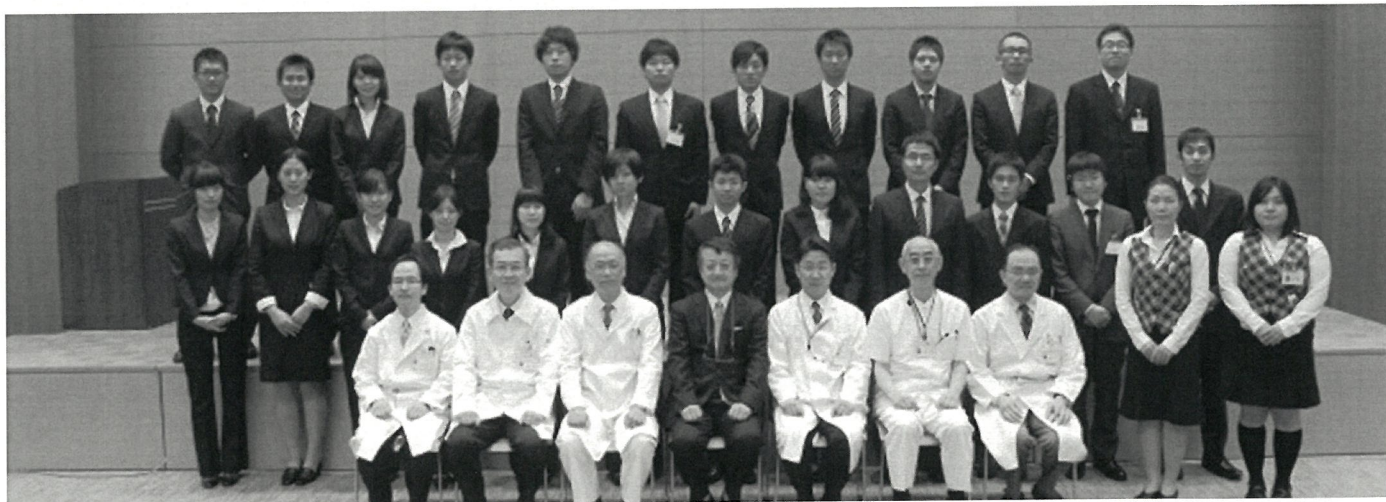
え、各科でのローテーションに取り組んでいます。

研修医は1年次、2年次を合わせて37名と一大勢力になりました。元気のある研修医を育てるために豊永医長を中心として指導体制の強化を行いました。具体

的には1年次は原田（正）先生、梶原先生、瀬下先生に教育担当をしていただきます。2年次は橋本（聡）先生、幸崎先生、多森先生が担当です。毎年増えてきています女性研修医の相談役は井上先生です。鶴田先生もこれまでどおりメンターとして活躍して貰います。力を合わせて指導内容をいっそう高めていきます。

研修医のまとめ役であるチーフレジデントは斎藤先生、サブは原田先生、梅崎先生です。2年次にはオリエンテーションでも活躍して貰いましたが、新人を教えながら自分達も育っていくことを期待します。

夕方の医局で一番大きな笑い声が聞こえるのは研修医のエリアです。忙しくても、達成感のある仕事をするために先生方のご指導よろしく願いいたします。



河野文夫院長を中心に20名の新臨床研修医

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「乗り遅れている医療のIT化」



城間整形外科

院長 城間 公博

熊本市で整形外科を開業しているものです。国立病院機構熊本医療センターの先生方、職員の方々には、常日頃より大変お世話になっており、この機会に感謝申し上げます。

このところ、医療のIT化が急速に進んでおり、電子カルテを導入されている先生方が徐々に増えつつあるようですが、当医院はやっと一昨年に、レセプトを紙から電子に変えたところです。もちろん、IT化の必要性は感じており、興味もありますが、何分にも取り組みにくいのが為、今一つ踏み切れず今日に至っております。ところが最近、高感度の音声

認識機能が付いてきたという新型iPadのニュースを見て、もしかしてこの機能が使えればIT化のきっかけになるのではと、淡い期待を持ちつつ、店頭で試してみましたが、期待は裏切られなかなか読み取ってくれませんでした。幾分腰くだけになりそうでしたが、折角の機会なので、色々調べてみることにしました。すでに、iPadを活用されている施設が多々あり、ある整形外科では、診察用に2台、問診用に2台、待合室の患者さん貸し出し用に2台、リハビリ室に1台の計7台を導入されているところもあり、驚かされました。4000種類以上ある医療用アプリを有効に活用されており感心するとともに、私にもわかかに興味をわいてきました。その中には画像や動画のアプリが豊富で、自己の学習はもちろん、スタッフや患者さんへの教育とかに活用されているようです。さらに今回の新型iPadですが、最大の特徴は画像がより鮮明で、拡大した文字は虫眼鏡で見るとよりもなめらかということで、視力の弱いお年寄りの方への説明などに最適のツールになるのではと感じました。色々調べるにつれ、自分がずいぶん遅れていることを改めて再認識させられ、そろそろ取り組まないと完全に乗り遅れそうな気がしてきて、今回の機会がIT化の弾みになればと思っているところです。スムーズな病診連携にIT化は不可欠でありますので、これから、少しでもその流れに乗ればいいかなと思っております。今後とも宜しく願い申し上げます。

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受信日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話（代表096-353-6501 内線2360）またはFAX（医事096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

（経営企画室長 織田 政継）

施設紹介

看護学校

本校は、三年課程の看護学校で、1学年定員40名、総定員120名です。教育理念である「自主・責任秩序・融和」の精神に基づき、社会に貢献できる看護の専門職業人の育成を目指しています。

平成24年4月には66期生の入学生を迎え、歴史と伝統があります。看護師国家試験は、毎年100%の合格実績を残しています。また、学生はボランティア活動や自治会活動を活発に行い地域の皆様との交流を大切にしています。

学校職員は、看護職を目指す学生を支援し、人々の健康や生命に携わる看護について語り合えるよう努力しています。本校で学ぶことや看護職を目指すことを誇りに思えるような教育を実践していきたいと思ひます。

(看護学校教育主事 岸田佐智子)



看護学校職員



戴帽式



教員が患者・看護師役



看護技術の指導



各学年対抗のバレーボール



よさこいを地域の皆さんに披露



オープンキャンパス

2012 診療科紹介(48)

呼吸器内科



部長
柏原 光介

呼吸器全般

日本内科学会認定医
日本呼吸器学会指導医・専門医
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
日本呼吸器内視鏡学会指導医
日本臨床腫瘍学会暫定指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
インフェクションコントロールドクター

診療内容と特色

急性期救命救急病院であると同時に地域医療支援病院であり、開業医の先生方からのご紹介も多く、急性期疾患の診断治療にテクニックを必要とする症例が多いのが特徴です。救命センターへ搬入される急性呼吸不全症例に対しては、他科の先生方と協力して最良と思われる治療を行っています。また当院では精神科救急を行っていることから、認知症や統合失調症などの精神科患者の嚥下性肺炎・膿胸などの呼吸器疾患も多く、精神科専門医と協同して入院加療を行っております。

診療実績

昨年(平成22年2月～平成23年1月)の新入院患者総数は789名、月平均65.7名、平均在院患者数37.2名、平均在院日数16.9日でした。平成23年8月より4名体制となり夜間および休日の待機回数が軽減されましたが、紹介患者数の増加によって担当患者数は減っていない状況です。入院患者数の約4割が嚥下性肺炎、2割が肺癌、2割が特発性間質性肺炎増悪、残りが胸膜炎・気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・気胸などの疾患です。徐々に誤嚥性肺炎に対して肺癌や呼吸不全の患者の占める割合が増加しています。

気管支鏡検査は主に平日の午後に行っていますが、急性呼吸不全や咯血症例はこの限りではありません。原因不明の胸水症例には気管支鏡を用いた胸腔鏡検査を行っています。また、小型肺癌疑い症例に対しては透視下経皮的肺穿刺吸引細胞診を積極的に行っています。



医師
岡本 知久
呼吸器内科



医師
山根 宏美
呼吸器内科
日本内科学会認定医



医師
田中 秀幸
呼吸器内科

研究実績

昨年は、やっと国立病院機構熊本医療センターでのデータを用いた臨床研究を英語論文として送り出せました。毎日を事故無く過ごすことに体力を奪われていますが、ゆっくりと前進します。肺癌に関しては九州肺癌臨床研究機構(LOGIC)や西日本がん研究機構(WJOG)に所属して臨床治験へ参加しています。しかしながら、呼吸器内科の患者が救急外来を経由する方がメインであることから、臨床治験にエントリーできる合併症や基礎疾患のない対象者が少ないことも悩みの種です。

ご案内

呼吸器内科外来(午前8時30分～11時が受付)は、月曜日は田中、火曜日は交替(外来にお問い合わせ下さい)、水曜日は山根、木曜日は柏原、金曜日は岡本が担当しております。

また、毎月第3月曜日には開業の先生方と一緒に症例検討会、「月曜会」を当院研修ホールにて開催しております。それぞれの立場で激論が交わされます。

最近のトピックス

顕微鏡手術時における ICG蛍光血管撮影の導入



脳神経外科部長

大塚 忠弘

本年度5月に新しく導入される、Indocyanine green (ICG)を利用した術中血流評価法 (ICG蛍光血管撮影) についてご紹介致します。

脳神経外科手術、特に血管手術においては、不完全処置であった場合には血管損傷に伴う重篤な後遺症が発生しますので、より完璧な処置を求められます。例えば、脳動脈瘤手術で瘤の血流遮断が不完全な場合に術後再破裂を生じて致命的となる例、親血管や重要な小動脈に狭窄や閉塞を生じ術後に重篤な脳梗塞を発生する例など、高い手術リスクを伴います。また、血行再建術における不十分な吻合や拡張も同様で、悲惨な結果を招きます。このような合併症を回避するため、手術支援法として術中の血流評価は大変重要です。現在、血管形状の変化を直視下に判断したり、ドップラー検査を利用して流速を測定する等の方法が主流ですが、いずれも間接的な血流評価に過ぎず信頼性に劣ります。施設によっては、四肢動脈穿刺による脳血管造影も実施されていますが、長時間の準備を要したり、安全性の面で問題があります。

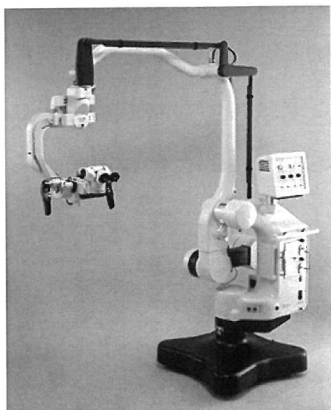


図1 手術顕微鏡MM80

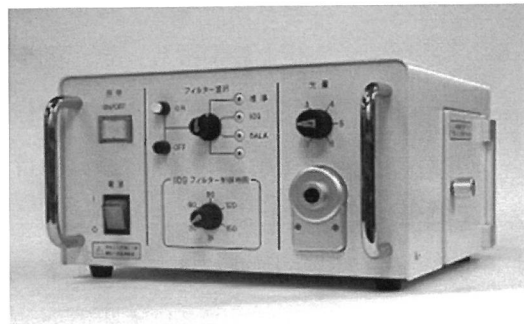


図2 光源装置F-light300

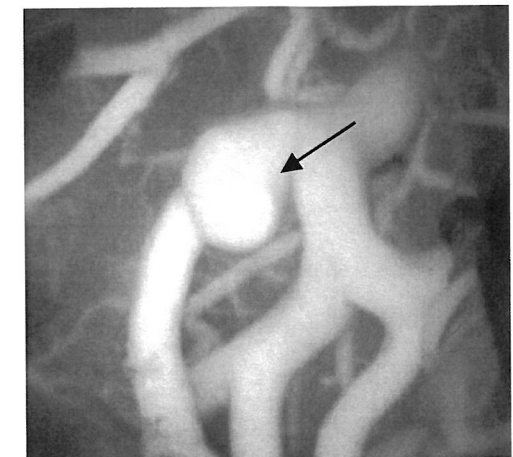


図3 ICG蛍光血管撮影
(←は血管分岐部に生じた脳動脈瘤
：村井保夫氏著書より抜粋)

このような背景のなか、国外では2003年頃から脳神経外科顕微鏡手術にICGを利用した術中血流評価法、すなわちICG蛍光血管撮影法の有効性が報告され始めました。国内では、もともとICGは診断用近赤外線化合物として、肝機能検査、眼底蛍光検査あるいは指示薬希釈試験等で使用されていましたが、脳血流評価薬としての使用は承認されていませんでした。しかし、2011年7月に、「脳主幹動脈の血行再建術後の開存状況、脳動脈瘤クリッピング術による脳動脈瘤への血流遮断状況等は、患者の生命予後を左右する重要な問題であり、その確認には確実性が要求される」との理由にて、「脳神経外科手術時における脳血管の造影 (赤外線照射時の蛍光測定による)」として急遽保険適応を承認されました。まさに、デバイス・ラグ解消として承認されたものです。

ICG蛍光血管撮影法は、血中で血漿蛋白と結合したICGが赤外光で励起され蛍光を発する特性を生かしたものです。具体的には、ICG 0.1-0.3mg/kgを末梢静脈より静注し、脳に達する10~数十秒後に手術顕微鏡 (図1：三鷹光器社製MM80、2009年度購入済み) にて術野を観察します。顕微鏡に取り付けられた光源装置 (図2：三鷹光器社製F-light 300、2012年5月購入) を介してカメラから近赤外線を照射し、ICG-血漿蛋白から発する蛍光波長を検出し顕微鏡視野内に画像化されます (図3)。このように簡便な手技で短時間・低侵襲的に開存する脳血管を発色させることにより、脳血流状態をリアルタイムに観察できます。この装置を利用して、当院における脳神経外科の手術成績をさらに向上させ、また、より一層安全な手術を提供できるよう努めます。

就任のご挨拶



事務部長
しげまつ 重松 かずとし 和俊

4月1日付で佐賀県の嬉野医療センターから事務部長で参りました重松でございます。今回の診療報酬改定は医療と介護の同時改定となりました。重点課題の一つに医療と介護の役割分担の明確化と地域における連携体制の強化の推進及び地域医療を支える在宅医療等の充実があります。引き続き、地域の先生方のご協

力を得まして円滑な医療連携を図っていきたく思いますのでよろしくご指導お願いいたします。

話は変わりますが、近江商人の教えに「三方善し」という言葉があります。商売人は「お客様のために善し」「世の中のために善し」「自分のために善し」の順番を守りぬくという教えです。医療にたとえば患者さんに喜ばれ（満足され）、地域医療のために貢献し、それがやがて病院にプラスになって返ってくることでしょうか。まんざらの外れでもないような気がします。微力ではありますが、専心努力する所存でございますのでご指導の程よろしくお願いいたします。



管理課長
なかむら あつし 中村 敦

4月1日付で管理課長を拝命しました中村でございます。昨年度までの2年間は経営企画室長として医事部門で救急医療や病診・病病連携に携わらせていただきました。当院は開放型病院、地域医療支援病院、熊本県地域救急医療体制支援病院として、地域の先生方

の協力を得て医療連携と救急医療の推進をしております。

今回の診療報酬改定では、救急患者の紹介・受入や院内感染防止等での地域医療連携が益々促進されていくことが予想されます。

また、毎年開催しております開放型病院連絡会へは、多数の医療機関の方々に参加いただいております。

新院長の下、微力ではございますが努力いたす所存でございますので引き続きご指導の程宜しくお願い致します。



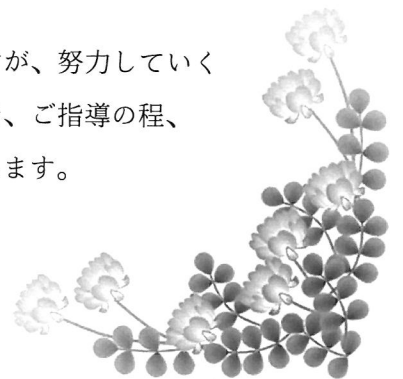
副看護部長
いしばし ふきこ 石橋 富貴子

4月1日付で嬉野医療センターより配置換えで参りました副看護部長の石橋富貴子でございます。熊本城の見事な桜に迎えられ、新たな気持ちで、熊本医療センターの玄関に立ちました。九州管内の国立病院機構の中でもトップクラスの超急性期病院とは聞いておりましたが、院内のスピードは聞きしに勝るものがございます。これも地域住民の皆様及び地域医療機関の皆

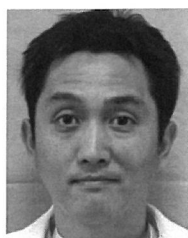
様のニーズに、常に、呼応していこうとしている病院の姿なのだろうと実感しております。

その中であって、看護部の理念である「尊重と自律」の精神に基づき、患者様・ご家族様のQOLの向上に寄与できる看護職員の育成が副看護部長の役割であろうと考えております。

微力ではございますが、努力していく所存でございますので、ご指導の程、よろしくお願いいたします。



新任職員紹介



外科
もり た けい すけ
森 田 圭 介

はじめまして。この度、国立病院熊本医療センター外科に赴任することになりました森田圭介と申します。生まれ育ちは熊本ですが、平成13年に産業医科大学を

卒業後、北九州市を中心に研鑽を積み、途中の八代市住まい（1年間ですが）を挟んで約15年ぶりに地元の熊本へ戻って参りました。当院に赴任する前は、北九州市小倉にあります九州労災病院外科で勤務し、消化器癌や外傷・良性疾患等の消化器疾患に対する手術を専門としておりました。また外科領域のtopicでもあります、鏡視下手術にも力をいれていました。

消化器外科医として、皆様により良い医療を提供できるような頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。



外科
きの した こう いち
木 下 浩 一

平成24年 4月より外科勤務となりました木下浩一と申します。

平成16年に熊本大学を卒業し、2年間熊本中央病院で初期臨床研修を行い、平成18年に熊本大学消化器外科へ入局しました。熊本大学附属病院にて研修後、熊

本労災病院、九州大学病院にて勤務いたしました。その後、熊本大学消化器外科教室の大学院に入学し、消化器癌とmicroRNAの研究を中心に勉強させて頂きました。H23年10月より、半年間球磨郡公立多良木病院にて勤務の後に、当医療センターに勤務できることとなりました。

長い間基礎研究ばかりをしていたせいもあり、外科技術・検査技術で不十分な面もあり、先生方にご迷惑をおかけすることも多々あるかと思えます。少しでも早く皆様のお力になれるよう頑張っていく所存でありますので、ご指導、ご鞭撻下さいませよう何卒宜しくお願い申し上げます。



泌尿器科
やま もと やす ひろ
山 本 泰 弘

はじめまして。

平成24年 4月 1日付けで泌尿器科に勤務させて頂くことになりました山本泰弘と申します。

平成16年に山口大学医学部を卒業し、熊本大学病院

にて初期研修を行い、平成18年に熊本大学病院泌尿器科に入局致しました。同医局入局後、熊本大学病院、高千穂国民健康保険病院での勤務を経て、平成24年 3月まで野尻会熊本泌尿器科病院にて勤務致しておりました。

熊本医療センターは県内屈指の救急病院であり、また様々な病態の患者様も多いとお聞きしておりますので、今後の私の医師人生の糧とすべく尽力していきたいと考えております。

泌尿器科の先生方をはじめ、他科の先生方には何かとご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



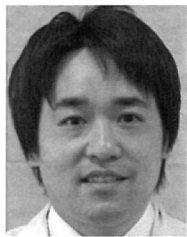
呼吸器内科
た なか ひで ゆき
田 中 秀 幸

2012年 4月より呼吸器内科に勤務することになった田中秀幸です。2005年熊本大学医学部を卒業し、初期研修1年目に当センターで研修を行い、その後3年目の2007年にも後期研修医として1年間研修でお世話に

なりました。

後期研修を開始した当初は呼吸器外科を希望していましたが、突然の心変わりです翌年熊本大学医学部呼吸器内科へ入局しました。入局後は熊本大学医学部附属病院、熊本市市民病院、熊本再春荘病院、球磨郡公立多良木病院に勤務し、今回再度当センターへ勤務することとなりました。3回目の勤務となり何かしらの縁を感じている次第です。多くの急性期疾患を診療することとなり、他科の先生方にご迷惑をおかけすることもあるかと思えますが、何卒よろしくお願いいたします。

新任職員紹介



放射線科

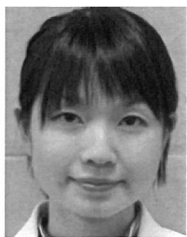
いわした こうや
岩下 孝弥

平成24年4月より放射線科で勤務させて頂くことになりました岩下孝弥（いわしたこうや）と申します。

平成18年に熊本大学医学部を卒業し、熊本赤十字病院で2年間の初期研修を終了したのち、平成20年に熊本大学放射線科に入局致しました。医師として7年目、画像診断を専門として5年目となっております。

今春より当センターで勉強させていただくことになりましたが、救急疾患をはじめ、多くの症例を経験させていただくことにより、幅広く深い知識が持てるように研鑽を深めたいと思っております。

システムや環境の変化もあり、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



麻酔科

もろが なおこ
諸家 直子

今年4月より麻酔科で勤務させていただくこととなりました諸家直子と申します。

平成21年3月に藤田保健衛生大学を卒業し、国立病院機構熊本医療センター・熊本大学医学部附属病院にて初期臨床研修を終え、平成23年4月熊本大学医学部附属病院麻酔科に入局し大学で1年間勤務いたしました。初期研修医の1年間は、当センターで多くの先生方にあたたかくご指導いただき大変感謝しています。再度当院に勤務させていただくこととなり、うれしく思う反面、大学とは経験できる症例などが異なり大変緊張しています。未熟な点が多く、先生方にはご迷惑をおかけするかと思いますが、精一杯頑張っていきたいと思っておりますので何卒よろしくお願いいたします。

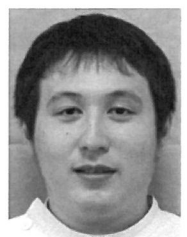


小児科

ひだか ゆうこ
日高 優子

はじめまして。

4月より小児科勤務になりました日高優子と申します。医師になって5年目です。生まれも育ちも鹿児島で、大学生まで鹿児島で過ごし、就職と同時に熊本に参りました。今年で小児科医として働き3年目になります。まだまだ未熟で、ご迷惑ばかりおかけすると思いますが一生懸命頑張りますのでご指導の程宜しくお願い致します。



消化器内科

こが むつお
古閑 睦夫

平成24年4月1日より消化器内科に勤務することになりました古閑睦夫と申します。

熊本大学を卒業し、2年間の初期臨床研修を終えた後、熊本大学附属病院を経て、この度、国立病院機構

熊本医療センターへ異動となりました。熊本医療センターは、救急症例を中心とした様々な症例を経験することが出来、教育面においても充実していると伺っています。また、先日、面接の際に訪問させて頂いたときに新しくなった施設を拝見させて頂きましたが、まるでホテルのような建物に、設備も充実しており、このようなソフト、ハードの充実した病院に勤務させて頂けることを大変嬉しく思っているところです。

しかし、一方で、熊本医療センターは大変忙しいということも聞いています。忙しさにパニックにならないよう、気を引き締め、出来ることから一つずつ研鑽を積んでいければと思います。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、宜しくお願い致します。



循環器内科

いし いまさ のぶ
石井 正将

今年の4月より当院循環器内科に勤務することになりました石井正将と申します。

平成21年3月に熊本大学医学部を卒業後、熊本大学

医学部附属病院、熊本労災病院、熊本赤十字病院で2年間の初期研修を経て、昨年度、熊本大学医学部循環器内科に入局し、熊本大学医学部附属病院に勤務致しました。

当院では、「断らない医療」をモットーに掲げているということで、豊富な救急症例や集中治療を経験できる機会に恵まれており、胸に期待と不安を抱いております。これまで以上に研鑽に励み、患者様から信頼されるような医師になれるよう頑張っていきたいと思っております。まだまだ未熟者ですので、御指導御鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

研修のご案内

第106回 総合症例検討会 (CPC)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年5月16日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ:『全身の痙攣での入院』

(65歳 女性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター神経内科

幸崎弥之助

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山 寿彦

「一人暮らし、これまでの痙攣の既往なし。2ヶ月前より左手のしびれあり。1ヶ月前より体調不良、食欲低下を自覚していた。全身性の痙攣があり、緊急入院となった。」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

第21回 症状・疾患別シリーズ(会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成24年5月19日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長: 国立病院機構熊本医療センター副院長 高橋 毅

演題:「腹部動脈疾患」

1. 腎血管性高血圧症

国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長

藤本 和輝

2. 腹部大動脈瘤

国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長

岡本 実

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第160回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年5月21日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討症例検討「橋本脳症が疑われた症例」

国立病院機構熊本医療センター神経内科

小阪 崇幸

4. ミニレクチャー「糖尿病の最新薬剤について」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科

信岡謙太郎

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第118回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成24年5月23日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「泌尿生殖器救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター泌尿器科部長

菊川 浩明

国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長

三森 寛幸

救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

第71回 特別講演(無料)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年5月31日(木)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長: 国立病院機構熊本医療センター院長 河野 文夫

「一内科医のAIDS治療薬の開発:成功、失敗、そして挑戦」

熊本大学大学院生命科学研究部血液内科学教授

満屋 裕明 先生

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) 096-353-3515(直通)

2012年 研修日程表 5月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

5月	研修センターホール	研修室	その他
1日(火)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 C2 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～19:00 外科術前症例検討会 C1
2日(水)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
7日(月)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
8日(火)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～17:30 外科術前症例検討会 C1 19:00～21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1
9日(水)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
10日(木)		18:30～20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
11日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
12日(土)	14:00～16:00 第237回 滅菌消毒法講座 「洗浄方法と一次処理の中央化」		
14日(月)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
15日(火)	19:30～20:30 第21回 熊本県食・薬下リハビリテーションセミナー 「pegと嚥下障害」 城本胃腸科内科クリニック 院長 城本 和明		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～19:00 外科術前症例検討会 C1
16日(水)	19:00～20:30 第106回 総合症例検討会(CPC) 「日本医師会生涯教育講座1.5単位認定」 「全身の痙攣での入院」		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
17日(木)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
18日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
19日(土)	15:00～17:30 第21回 症状・疾患別シリーズ 「日本医師会生涯教育講座2.5単位認定」 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 高橋 毅 「腹部動脈疾患」 1. 腎血管性高血圧症 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 2. 腹部大動脈瘤 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長 岡本 実		
21日(月)	19:00～20:30 第160回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
22日(火)	18:30～20:30 血液研究班月例会	19:00～21:00 小児科火曜会(研1)	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～19:00 外科術前症例検討会 C1
23日(水)	18:30～20:00 第118回 救急症例検討会 「泌尿生殖器救急疾患」		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
24日(木)	18:30～20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 (細胞診月例会・症例検討会)	19:00～21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
25日(金)		15:30～16:45 肝臓病教室(研2) 「肝臓について」	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
28日(月)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
29日(火)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～19:00 外科術前症例検討会 C1
30日(水)	18:00～19:30 第74回 クリティカルパス研究会(公開)		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
31日(木)	19:00～20:30 第71回 特別講演 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 座長 国立病院機構熊本医療センター 院長 河野 文夫 「一内科医のAIDS治療薬の開発：成功、失敗、そして挑戦」 熊本大学大学院生命科学研究部血液内科学教授 満屋 裕明		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2

研1～3 2階研修室1～3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター 読影室 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)